

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 インターカルト日本語学校

1 事業の趣旨・目的

私たちの学校がある台東区は、人口の約7%が外国人という地域である。また、ボランティアに関しては、いくつかの団体が存在するが、横のつながりはなく、各ボランティアベースで活動を行っている。学習者の数も多く、レベルにも差がある。地域に住む外国人は、国籍、滞在期間、目的も様々である。その多様化に対応できる力を養いたいと日頃考えているボランティアの方々が多く存在するが、勉強する場がないのが現状である。インターカルト日本語学校は、日本語教師養成コースを持ち、多くの日本語教師を育ててきた経験がある。そのノウハウをボランティアの方々に伝えるため、技能別に日本語文法、漢字、発音指導をワークショップ形式で教え方を実際に体験しながら学ぶ講座を企画した。また、日本語学校ならではの特徴を生かし、初級レベル、中級レベルの学生に教える実習を組むことで、レベルの違いを理解し、また話を引き出しながら日本語を指導する体験することで、今後の活動で指導する幅を広げてほしい。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月11日	インターカルト 日本語学校	加藤早苗 筒井由美子 沼田宏 佐々木隼人 谷口真理	テーマ、内容、人選、募集 対象、募集方法など	台東区のボランティア団体に声をかけるとともに、近隣の団体にも声をかける。 今年度の講座も「どう教えるか」を中心とした講座の内容を考える。
9月10日	インターカルト 日本語学校	加藤早苗 筒井由美子 沼田宏 佐々木隼人 谷口真理	講座内容の最終確認 講師の依頼状況 募集に関して 連絡方法	講座の内容の確認。 初級実習、中級実習について、どのように行するか。 実習に必要なこと。 今後の連絡方法。

【写真】



3 講座の内容について

- (1) 講座名 ボランティアのためのブラッシュアップ講座 Part2
～初級から中級レベルの教え方～
- (2) 目標
 - ・地域に住む外国人は、国籍、滞在期間、目的も様々である。その多様化に対応できる力を養う。
 - ・地域で活動しているボランティアに、日本語学校の教えるスキルを学ぶことで自身の教える幅を広げることができる。
 - ・ボランティア同士で、活動内容を共有し、ボランティア同士のネットワークを講座中に作る。そのことで地域に住む外国人に自分の所属しているボランティア以外にも学べる場の提案ができるようになる。
- (3) 受講者の総数 17 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本 16人, 韓国 1人)
- (4) 開催時間数(回数) 24 時間 (8 回)
講義 18 時間 (6 回) 実習 6 時間 (2 回)
- (5) 参加対象者の要件
ボランティアとしての日本語指導の経験を有する者
- (6) 受講者の募集方法
台東区、近隣のボランティア団体に通知。台東区、近隣の地域振興課に協力の依頼。
ホームページ、前回受講者に通知
- (7) 会場
ア 講義 インターカルト日本語学校
イ 実習 インターカルト日本語学校
- (8) 使用した教材・リソース
日本語の文法、合格するための文法、どんな学級でも使えるエンカウンター20選、みんなの日本語、ファンダメンタルジャパニーズ、おしゃべりのたね、

マンガで学ぶ日本語表現と日本文化

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
10/1 (土) 13:00～ 16:00	日本人の知らない 日本語① 国語文法ではない 外国語としての日本語文法	インターカルト日本学校 日本語教員養成研究所 所長 筒井由美子	16名
10/8 (土) 13:00～ 16:00	日本人の知らない 日本語② 国語文法ではない外国語と しての日本語文法	インターカルト日本語学校 日本語教員養成研究所 所長 筒井由美子	16名
10/15 (土) 13:00～ 16:00	教え方実践編 漢字圏・非漢字圏の漢字学 習法 第2弾「漢字はおもしろい！ 漢字は便利！」	インターカルト日本語学校講師 神本令子	14名
10/22 (土) 13:30～ 16:30	教え方実践編 一中級レベル編 学習者と学ぶ教室活動①	インターカルト日本語学校講師 萩原秀樹	14名
10/29 (土) 13:00～ 16:00	地域の日本語教室の「わた し」にできること ボランティア活動を振り返 るワークショップ	インターカルト日本語学校講師 田中美穂子	14名
11/12 (土) 13:00～ 16:00	教え方実践編 一中級レベ ル編 学習者と学ぶ教室活動② 実習	インターカルト日本語学校講師 萩原秀樹	14名
11/19 (土) 13:00～ 16:00	教え方実践編 一初級レベ ル編 教壇に立つためのプラン作 り	インターカルト日本語学校講師 齋藤美幸	15名

11/26 (土) 13:00~ 16:00	教え方実践編 —初級レベル編 実習 教壇に立ってみよう!	インターカルト日本語学校講師 齋藤美幸	15名
------------------------------	---------------------------------	------------------------	-----

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

●10月1日 日本人の知らない日本語①

- ・改めて動詞、形容詞の活用を確認できた。
- ・コト(事柄)とムード(表現意図)の関係がはっきりと理解できた。
- ・具体例をその都度あげてくれたので、学習者に説明するポイントが理解できた。
- ・今まではただ話し相手のボランティアだったが、文法の知識の必要性を理解した。
- ・導入の方法を具体例な例をあげて教えて下さり、とても参考になった。

●10月8日 日本人の知らない日本語②

- ・自動詞、他動詞が良く理解できた。
- ・助詞の使い方の説明が、具体的でよく理解できた。現場で生かしたい。
- ・学習者に質問されたとき、どう説明するか、頭の中で整理できたと思う。

●10月15日 漢字圏・非漢字圏の漢字学習法

- ・漢字の持つ意味と仕組みが良く理解できた。非漢字圏の学習者が興味持つよう説明ができそうだ。
- ・非漢字圏の学生にどう漢字を教えたらいいのか、理解できました。
- ・楽しく教える方法を教えてもらいました。
- ・実際の現場で、先生が教えてくださったとおりに指導してみました。
学習者たちは、楽しいで学習していました。ちゃんと教えることができた、とても感謝しています。

●10月22日・11月12日 教え方実践編 —中級レベル編

- ・コミュニケーションの取り方の大切さを学ばせていただきました。
実際のボランティアの場で生かせることがたくさんありました。
- ・動く教えるは、興味深かった。
- ・学生の日本語力にびっくりした。会話が成り立った。
- ・学生さんとの会話がとても楽しかった。中級レベルは、こんなに話せるんだと実感した。
- ・教科書中心のから抜け出せずにいましたが、とにかく楽しく学ぶヒントがたくさんあって、コミュニケーションにとり方がよくわかった。

●10月29日 地域の日本語教室の「わたし」にできること

- ・様々な活動をしている教室があり、その情報を共有できたことが良かったです。
- ・各々が所属されているボランティアの会の取り組みを聞かせて頂いて、大変参考に

なりました。

- ・ボランティアのシステムがそれぞれの教室で違っているのですが、参考になりましたが、生活支援までは難しいと思いましたが、出来る限り、力になればと思います。

●11月19日・11月26日 教え方実践編 —初級レベル

- ・学習者の理解しやすい話題の提供の仕方が、勉強になりました。
- ・導入の大切さを理解することができました。
- ・他の団体の方々の、教え方を見ることができてとても参考になりました。
- ・実習のスタイルを、日頃の私たちのスタイルでできたので、緊張することなく教えることができました。
- ・話すのではなく、話を引き出すように努力しましたが、難しかったです。
- ・教える楽しさを実感することができました。項目を初めて意識して教えたと思います。

② 実施主体からの研修内容結果評価

アンケートの結果からみて、受講者の満足度は高いと思われる。今年度で3回目の委託でもあり、ボランティアの方々が、何を知りたいのか、理解できるようになった講師陣からの感想であった。教えるための技術より、「どう教えるか」がボランティアの方々が知りたいことであり、今回の講座も、この点を含んだ内容であったと思う。

実習の前に、初級レベル、中級レベルの学生と話す機会を作り、レベルの違いを実感していただいた。日本語学校だからできることと実感している。また、実習は、教える項目を意識して、いつものスタイルで行った。お話しを中心のボランティアの方々は、初めて、項目を意識しておしゃべりをしたとのことで、今まで、しゃべり過ぎていたことに気づいたと感想を述べていた。今回の実習の中で、自分の教え方を客観的に見られ、他のボランティアの方々と共有しフィードバックも出来、共通認識も得たことは受講生にとって、大きな成果だったと考える。毎回、講座を楽しみにしていただき、一度も休まず通った受講生が多くいた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

横浜市国際交流協会主催の日本語ボランティア養成講座「入門編」と「スキルアップ編」の講座の委託依頼があり、今年度実施した。文化庁の委託のボランティアのための講座を3年にわたって行って実績が評価されたと思われる。内容も好評で、来年度も引き続きお願いしたいとありがたいお言葉をいただいた。今後は、他の地域にも働きかけていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

2年前に台東区主催の「外国人支援ボランティア養成講座(スキルアップ編)」を台東区交流促進課から委託され、実施した。交流促進課と情報交換ができる関係を築いた。台東区のボランティア団体と交流できる関係が築けた。また、今年度は横浜の国際交流協会とのつながりもでき、多くのボランティアの方々と話す機会にめぐまれた。

② 研修後の人材活用

この研修を通じてボランティア1人1人が「日本語を教える」スキルを十分学んだと実感している。ここで学んだスキルを所属している団体に持ち帰り、他のメンバーに教え、広げていることで、ボランティア全体の教えるレベルの向上が期待される。

(12) 今後の課題

日本語学校が地域のために何ができるのか、3年の実績を通して分かってきたように思う。「日本語を教える」スキルを、地域で日本語を教えるボランティアの方々に、提供していく機会を作ること。そのためにも行政との関係が不可欠であるので、その関係づくりを構築していく必要がある。また、行政とボランティアとの橋渡しを日本語学校が担っていくことも必要である。